



HONDA FOUNDATION

公益財団法人 本田財団 104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20

Tel 03-3274-5125 Fax 03-3274-5103 <http://www.hondafoundation.jp>

2014年9月17日

「人間性あふれる文明を創る」をテーマとする 「本田賞 35 回記念シンポジウム」を開催

公益財団法人本田財団(設立者:本田宗一郎・弁二郎兄弟、理事長:石田寛人)は、本年35回目を迎える本田賞を記念して、「人間性あふれる文明を創る」をテーマとする「本田賞35回記念シンポジウム」(後援:日本経済新聞社)を2014年11月14日(金)に東京大手町の日経ホールで開催します。当日は、過去の本田賞の受賞者4名を招き、それぞれの記念講演やパネルディスカッションにて、現代の文明の問題点を再度見直し解決の道を探る議論に取り組みます。

当財団では、「自然環境」と「人間環境」の両方と調和できる科学技術を「エコテクノロジー」と呼び、その発展拡大に努めています。本田賞は、このエコテクノロジーの観点から、社会に貢献し次世代のけん引役を果たしうる新たな知見をもたらした個人またはグループの努力を評価し、その業績を讃える国際褒賞として1980年に創設されました。

本年はこの本田賞の35回目の表彰の年に当たりますが、これを機会に、産業の発展、文明の進化によって得られた恩恵と、同時にもたらされた現代社会が直面する様々な問題との均衡について、現在の課題を再認識・共有するとともに、その解決に向けて今何がなされるべきなのか、またその中で科学技術が果たすべき役割はいかにあるべきかについて議論する場を設けることとしました。

今回開催するシンポジウムでは、基調講演に続く記念講演として、過去の本田賞受賞者から選ばれた異なる分野を専門とする4名の科学者・経済学者が、異なる4つの切り口、すなわち、

- ・ 社会や個人に与える影響という点で大きく変革を遂げた、科学技術に携わる者に求められる資質と倫理を問う「Paradigm Shift (パラダイム・シフト)」
- ・ 地球環境問題に対し、科学者や技術者がとるべき方向性を探る「Sustainability (持続可能性)」
- ・ 人間と技術の共生という観点から、技術革新のあるべき姿を追い求める「Innovation (イノベーション)」
- ・ 生命科学技術の進歩と可能性、さらには生命の尊厳について考察する「Life Frontier (ライフ・フロンティア)」

に従って、それぞれの持論を展開します。最後に、これら4名の登壇者に本年の本田賞受賞者も加わってパネルディスカッションを行い、学際的な討議・意見交換を通じて、現代の視点で最も重要な課題を認識し、その解決の糸口を見いだし、シンポジウムのテーマである「人間性あふれる文明を創る」ことに向けた提言の発信を目論みます。

当日の登壇予定者は以下の通りです。

- ・ **オーケ・E・アンダーソン博士**(「Paradigm Shift」領域):
(1936年スウェーデン生まれ ヨンショーピン・インターナショナル・ビジネススクール 経済学教授元スウェーデン未来学研究所所長)
Creativity(創造性)、Communication capacity(コミュニケーション容量)、Complexity of products(製品の複雑性)の3つの「C」をキーワードとする次世代の産業社会「C社会」を提案、自然環境保全と地域経済発展の両立を図る理論を展開、実践したことにより、1995年 第16回本田賞を受賞
講演テーマ:「変容する経済システム」

- ・ **ヘルマン・ハーケン博士**（「Sustainability」領域）：
（1927年ドイツ生まれ シュトゥットガルト大学名誉教授 元ドイツ物理学会量子光学部部長）
「シナジェティックス」の創始者として、複雑なシステムの秩序形成の仕組みを理論的に解明し、多くの学問領域に多大な影響を及ぼした功績により、1992年 第13回本田賞を受賞
講演テーマ：「サステナビリティとシナジェティックス」
- ・ **ラジ・レディ博士**（「Innovation」領域）：
（1937年インド生まれ 米国カーネギーメロン大学計算機科学科教授）
コンピュータ科学とロボット工学の世界的先駆者として、その教育・医療・福祉への広範な応用を通じて未来社会への変革に貢献したことにより、2005年第26回本田賞を受賞
講演テーマ：「人間性あふれる文明の創造における技術革新の役割」
- ・ **デニ・ルビアン博士**（「Life Frontier」領域）：
（1957年フランス生まれ フランス・ニューロスピン(NeuroSpin)超高磁場MRI 研究センター所長）
拡散MRI(核磁気共鳴画像法)技術の基礎から臨床応用までを確立した先駆者として、急性脳梗塞治療等への活用を通じてMRIの世界的普及に貢献したことにより、2012年 第33回本田賞を受賞
講演テーマ：「生物学と医学における水分子エコテクノロジー」

なお、基調講演は公益社団法人 日本経済研究センター 参与の小島 明氏が「人間性あふれる文明の創造へ向けて」のテーマで行います。また、本年度の本田賞受賞者で、チタンアルミ分野の権威であるオーストリア レオーベン鉱山業大学 金属物理・材料試験学部長のヘルムート・クレメンズ博士がパネルディスカッションに参加します。シンポジウムは一般にも公開し、本田財団のホームページ(<http://www.hondafoundation.jp>)で参加を募集します。

本田財団は、本田技研工業の創業者 本田宗一郎と、実弟の弁二郎が私財を投じ、1977(昭和52)年に設立しました。

現代社会は、急速な技術革新により、高度の経済成長と飛躍的な繁栄を達成しましたが、その一方で、環境破壊や公害問題、都市の過密化、人口食糧問題、人種民族間の精神的ギャップの拡大など、深刻かつ複雑な問題を派生させることになりました。

当財団では、現代文明の現状及び将来の在り方について自由に討議し研究する場として、国際交流やシンポジウムなどの開催、研究・教育・普及その他の活動に対する褒賞および助成、現代文明の成果を活用する調査研究などの事業活動を活発に展開し、もって人間性あふれる文明の創造に寄与することを目的としています。

お問い合わせ先：公益財団法人 本田財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-20 ホンダ八重洲ビル

TEL:03-3274-5125 FAX:03-3274-5103

<http://www.hondafoundation.jp>